

学校経営方針(中期経営目標)	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
<p>「峰山学園」の経営方針を踏まえ、教育活動全体を通して学園教育目標「ふるさとを愛し、多様な人とつながりながら学び、探究し続ける子どもの育成」に迫る。</p> <p>(峰山学園 めざす子ども像)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>主体的に学び続ける子ども</li> <li>人を思いやり仲間と共に高め合える子ども</li> <li>粘り強く挑戦し続ける子ども</li> </ul>	<p>○学校教育目標の理念が教職員、児童ともに浸透してきた。</p> <p>○気になる事象については情報を共有し組織的に早期対応を行った。いじめや大きな生徒指導事象はなく、不登校傾向児童もいない。全校児童が登校できた日が121日あった。</p> <p>○△学園の秋季研修会で全学級の公開授業に向けて、京都教育大学の教授を年間5回招聘し、「主体的・対話的で深い学び」や探究的な学習について学ぶことができた。全教員の授業力向上に向けて継続して研鑽していく必要がある。</p> <p>△年間3回の生活がんばり週間を設定したり、PTA本部役員から啓発の便りを発行していただいたりしたが、ゲームの時間や就寝時刻は改善できなかった。</p> <p>△特別支援教育について、外部と連携して個々のニーズに応じた指導や支援の方法を学び指導に生かすとともに、保護者や児童の気持ちに寄り添った就学相談を継続していく必要がある。</p>	<p>学校教育目標「ちがいを認め合い、笑顔あふれる学校～Well-being 最後の1年を最高の1年に～」</p> <p>人権尊重を基盤とし、あらゆる教育活動を通して、一人ひとりを大切にした教育を推進する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 人を思いやる豊かな人間性の育成、安心できる居場所づくり(心理的安全性)</li> <li>2 一人ひとりを大切に個性や能力を最大限に伸ばす指導(発達支持的生徒指導)</li> <li>3 確かな学力・コミュニケーション能力の育成(個別最適な学び・協働的な学び・探究的な学び・深い学びの推進)</li> <li>4 たくましく健やかな心身の育成</li> <li>5 ふるさとを愛し、安心・安全で信頼される学校づくり(環境整備、保護者・地域連携)</li> </ol>

評価項目	重点目標	具体的方策	成果と課題(自己評価)	学校関係者評価
教育課程 学習指導	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 各教科の「見方・考え方」を働かせながら、「探究的な学びを手法とした深い学びの実現」に向けた学級の基盤づくりと授業づくりを追究する。</li> <li>2 振り返りを重視し、自己調整力を育成する。</li> <li>3 目標と指導と評価の一体化を図る。</li> <li>4 ICTのより効果的な活用を推進する。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 昨年度積み上げた成果を基盤として、研究推進部が中心になり、理論研修や研究授業を計画的に実施する。また、他の教科でも「探究的な学び」が意識できるよう、授業イメージを共有したり、実践を交流したりする。</li> <li>2 振り返りの視点(4項目)を可視化し、どの学級でも様々な教科で意識し、児童が自分の成長に気付けるようにする。</li> <li>3 児童実態に応じた目標を設定し、ゴールを明確にした授業づくりを行う。</li> <li>4 授業と家庭学習を連動させたICTの効果的な活用や探究的な家庭学習について交流しながら追求する。</li> </ol>	<p>○△全学級研究授業を実施し、「主体的・対話的で深い学び」や探究的な学習について継続して研究を行った。事前研、事後研では活発な意見を交流するとともにその都度まとめを作成し、次の研究授業に繋げていった。今後も授業力向上に向けて研鑽していく必要がある。</p> <p>○振り返りの視点を全学級に掲示した。学習を振り返ることにより、自分の成長や課題などを見つめさせ自己調整力の育成に繋げていった。</p> <p>○2学期からChromebookになったが、教職員で研修しながら全学年で使用できた。毎日、持ち帰り、家庭学習でも使用した。探究的な学習としての活用を更に追求していきたい。</p>	<p>○出前授業の依頼を受け、総合的な学習の時間に「祭り」や「長尾城址」等について3人の地域の人が授業をした。地域のことを学んでくれるのは嬉しい。地域を大切にする気持ちを今後ももち続けてほしい。</p> <p>○中学校の授業を参観しても全員がタブレットを使用しているので、中学校へ繋がるように小学校からスキルを向上させてほしい。</p>

学校教育指導の重点、保幼小中一貫教育の諸計画及び各学園の重点等を基盤として	生徒指導	1 人を思いやる豊かな人間性を醸成する。 2 発達支持的生徒指導を全教育活動で推進し、不登校傾向やいじめ事象等の未然防止、早期発見、早期解消に努める。 3 最後の1年を充実させるとともに、適正配置向けの不安感を緩和させる。	1 教え合い助け合う児童同士のつながりを通して、思いやりのある行動を価値付けし、誰もが安心して生活でき居場所のある学級、学校づくりを進める。 2 一人ひとりを大切にしながら児童が主体となる活動を仕組むと共に、全教職員で全校児童を育てることを意識する。また、生徒指導部、教育相談部、いじめ防止委員会の機能化を図る。 3 「誰もが楽しめること」を念頭に置き、児童の希望に寄り添いながら、最後の1年にしたいことが実現できるよう支援する。また、いさなご小学校と学期に1回以上の交流学习が実施できるように調整を図る。	○学校教育目標の理念が児童に浸透し、授業や児童会活動等様々な場面で思いやりのある行動が見られた。 ○発達支持的生徒指導を教員が意識し、行事や取組を児童が主体となって活動したことで、その都度達成感を得ることができていた。生徒指導事象はあったが、組織的に対応し児童指導や家庭訪問を行うことで、学校のきまりについて再確認することができた。いじめ事象はなく不登校傾向児童もいない。 ○「最後の1年を最高の1年にしたい」という意識が高まり、「誰もが楽しめるように」工夫しながら、児童が様々な行事を企画し、全校児童で実施していた。いさなご小学校との交流は、全学級で学期に1回実施し、保護者の授業参観も行うことで、児童や保護者の不安を緩和させることができた。	○自分達でいろいろな体験ができています。毎日楽しそうに登校している。 ○不登校の子どもがいないのがとても良い。家庭と連携ができています成果だと言える。 ○児童アンケート結果では、自己肯定感が高く素晴らしい。いろいろなことに達成感を得られていることが覗える。 ○交流学习をしていく中で、いさなご小学校に行くのが楽しみだという声が聞こえてきてありがたい。 ○いろいろなことに目配りをして、様々な取組を行っていることが素晴らしい。
	健康・安全	1 体を動かすことを楽しみ、体力づくりやスポーツに親しむ態度を育成する。 2 PTA や家庭、児童会と連携して基本的な生活習慣を確立させる。 3 危機管理の充実や環境整備による安心・安全な学校づくりに努める。	1 体育や中間マラソン、縄跳び等、目標を明確にして振り返りながら取り組み充実感をもたせる。 2 生活がんばり週間等で PTA 本部役員や保護者の協力を得るとともに、児童会を巻き込み、SNS の使用時間や就寝時刻を考えさせ、健康的な生活習慣を確立する。 3 年間4回の避難訓練を実施し、状況に応じた身の守り方を学ばせる。また、毎月安全点検を行い修繕に努めるとともに、家庭や地域と連携し、安心安全な登下校を目指す。	○各自が目標に向かって取り組み、達成感を得ることができた。休み時間には、野球や大縄、ドッジボール、そり等をして活発に体を動かしていた。 △SNS の使用時間や就寝時刻について、年間3回の生活がんばり週間の設定や児童会からの呼びかけ、PTA 本部役員による啓発の便りの発行等を実施した。保護者アンケート結果では、やや改善は見られたものの大きな改善には至らなかった。 ○避難訓練を計画通りに実施し、状況に応じた避難の仕方を学ばせることができた。年間を通して、安全点検やニコニコカーでの保護者による登下校の見守り活動が実施できた。	○熊の対応について、毎日巡回してもらったり、学校で作った熊スプレーを子どもに持たせてもらったりと安全確保に努めていただきありがたかった。 △来年度からバスでの登下校で発着場所が長岡小学校になるが、登校時には子どもだけになることが心配である。PTA に働きかけたり、地域でボランティアを募ったりしているが、教育委員会にも支援をしていただきたい。

<p>人権教育</p>	<p>1 人権尊重を基盤とした学校経営を推進し、教職員の人権意識の高揚を図る。</p> <p>2 違いを認め合い、多様性を受け入れ、誰とでも仲良くできる児童を育成する。</p> <p>3 人権について考える機会を設定するとともに、保護者への理解を深める。</p>	<p>1 全教育活動を学校教育目標と連動させ、研修等を通して教職員に人権尊重を意識させる。</p> <p>2 違いを認め合い、教え合い助け合う学習や異年齢活動を通して、居心地のよい学校・学級づくりを推進する。</p> <p>3 人権旬間や人権月間では課題に応じたテーマを設けて取り組む。また、学校・学級だより等や授業公開を通して保護者等に啓発・発信をする。</p>	<p>△○教員の気になる言動があり、直接指導や校内研修を継続して行った。グループ協議や自身を振り返る機会を設けること等を通して改善が見られた。</p> <p>○児童会活動等で「誰もが楽しめること」を考えて取組を企画、実行することを楽しんでた。以前から見られた友達関係での気になる事象が緩和されてきた。</p> <p>○人権旬間や人権月間等を計画的に進めることができた。良い所見つけや盲導犬を連れて来校された外部講師による講話等により、人権尊重の気持ちや障害に対する理解を深めることができた。また、ホームページ等で発信することもできた。</p>	<p>○登校時にあいさつが良くできている。</p> <p>○子ども達はみんな仲が良い。</p>
<p>特別支援教育</p>	<p>1 理解教育を通して、ちがいを理解して、認め合い、助け合える人間関係を築く。</p> <p>2 特性に応じた指導・支援の方法を追求する。</p> <p>3 保護者や関係機関と連携し、個々のニーズに応じた就学相談を進めていく。</p>	<p>1 学級開きや人権学習等を通して、様々な障害に対する理解教育を行う。</p> <p>2 発達障害等、個別の支援が必要な児童への効果的な支援方法について研修や他機関との連携により学び追求していく。</p> <p>3 個々のアセスメントを丁寧に行うとともに、外部との連携を図り、保護者や児童の気持ちに寄り添った就学相談を継続して行う。</p>	<p>○学級開きや朝会等の講話で理解教育を行い、互いを認め合う雰囲気が醸成された。</p> <p>○局の研修会や丹後地域教育支援センターの巡回相談等により、支援を要する児童の効果的な指導や支援の方法を学んだ。</p> <p>△個別の支援が必要な児童について、保護者や医療と連携し、より効果的な方法を探りながら学校体制での支援を継続した。適切な支援ができたのかと苦慮している。</p> <p>○事前に打ち合わせをして懇談に臨むことで、保護者と良好な関係を保ちながら懇談を継続することができた。これまで特別支援学級への入級に同意が得られなかった保護者の理解を得ることができた。</p>	<p>○地域の活動でも支援が必要な子どもがいるが、年々成長しているのがわかる。</p> <p>○置き去りになる子がいないように、丁寧に子どもに接してもらっている。</p>
<p>次年度に向けた改善の方向性</p>	<p>いさなご小学校に引き継いでいきたいこと</p> <p>1 人権尊重を基盤とした学校経営を推進し、教職員の人権意識の高揚を図る。</p> <p>2 各教科の「見方・考え方」を意識した「主体的・対話的で深い学び」の実現や探究的な学習になる授業を実施する。</p> <p>3 PTA や保護者、児童会と連携して SNS の利用の仕方や就寝時刻について考え、よりよい生活習慣の確立を目指す。</p> <p>4 特別支援教育について、個々のアセスメントを丁寧に行うとともに、外部との連携を図り個々のニーズに応じた指導や支援の方法を学び、保護者や児童の気持ちに寄り添った就学相談を継続して行う。</p>		<p>・いさなご小学校に行っても今以上に生き生きと過ごしてほしい。そして、長岡地区の一員であるという気持ちを持ち続けてほしい。</p>	